

般



問 若い役場職員の退職が多いが
答 環境を整備して大事に育てる

△清水議員▽
 ①今年度は、年度末をもって結婚以外で4名の職員が退職予定だ。退職に至った理由は、本音と乖離があるように思うが。
 ②課や担当によって業務量が過重と見受けら

れる場面はないか。
 ③現在の人員配置は任命時のベストだったと考えているか。
 ④時間外勤務をする際は、勤務時間を上司が記入するとなっているが、実際は全てを当該職員に記入させ上司は月末確認するようなことではないか。
 ⑤労働基準法36条の規定時間外労働条件は遵守されているか。
 ⑥法定休日勤務の場合、本町は振替代休が主流だが、それは消化できているか。
 ⑦法定休日に勤務した場合、代休を与えても割り増し分は支給しなければならぬ。支給されていたか。
 ⑧業務量が多く代休を取れずに、サービス残業となってしまうことはないか。

△長屋町長▽
 ①自己都合退職は、平

成26年度以降、年平均で5.7人。本音として聞いているものとして「役場の仕事かと思っていったものと違った」、「仕事が向いていない」、人間関係、業務の過重などを把握している。
 ②業務が集中する時期や突発的業務で、一部の部局に相当量の時間外勤務があることは否定できない。
 ③余力的人員の必要性はあると感じる。業務量を見据えた中で職員の配置をしたい。
 ④決裁の都度、勤務時間等を把握しているの、そのような事例はない。
 ⑤現実的には令和元年度、この上限を超えた職員が数名いる。
 ⑥未消化が極一部ある。
 ⑦支給している。
 ⑧時間外勤務命令によらず仕事をするとすることが「無い」とは正直いえない。

△清水議員▽
 必要な業務があるのに、認めないということとは基本的でない。

△清水議員▽
 勤務状況を正確に把握するため、タイムカードが各課に必要ではないか。
 又、昨年度から本年度にかけて働き方改革関連法に沿って、改革された事案はあったか。

△長屋町長▽
 将来的には職員の勤退管理をしっかりと考えていきたい。
 時間外勤務の上限規制を条例改正で取り入れた。職員全体の有給休暇取得率は決して高くないので、定期的な休みが取れるように徹底したい。

職の歯止めもきかなくなる。
 正当に評価されるやりがいのある職場づくりが必要ではないか。
 △長屋町長▽
 職員を大事に育てなければならぬ。採用した若手職員が辞めることは大きな損失で非常に残念だ。
 働きやすい環境、物的職場の環境の整備を今以上に、気持ちよく働ける職場にしていきたい。

△清水議員▽
 役場がきつい職場だと思われては、若者の採用も困難になり、離